

2025年10月

安全の手引き

在ガボン日本国大使館

はじめに

ガボンには 1960 年の独立後、内戦や大きな紛争に巻き込まれることがなく、石油資源によりアフリカの中でも比較的豊かで、安定した政治経済状況を維持しています。2023 年 8 月に行われた大統領選挙の結果発表後、選挙を無効として軍が政府を掌握する「政変」が発生しましたが、一人の犠牲者を出すことなくその後の民主化移行プロセスも平穏裏に進んでいます。

大陸の中では自然豊かな産油国として知られ、石油以外に鉱物資源が非常に豊富で特にマンガンは世界有数の産出国であり、周辺国と比べると現在は治安も比較的安定していると言われています。

しかし、一般犯罪の発生は高止まりしており、旅行者や在留邦人の中には危険な目に遭う方も存在しています。

この「安全の手引き」は、ガボンに在留もしくは渡航される皆様の防犯意識を高めるきっかけとして安全対策に少しでもお役に立てればと考え、当地で滞在・生活するための注意事項や緊急事態が発生した際の対処要領等についてまとめたものです。是非お読みいただき安全対策にお役立て下さい。

【防犯の手引き】

1 防犯のための基本的な心構え

海外での生活は日本とは大きく環境が異なるため、ちょっとした不注意で犯罪に巻き込まれてしまうことがあります。犯罪に巻き込まれないためには、一人一人が「自分の身は自分で守る」という基本認識を持つとともに、言動及び周囲の状況に十分注意を払い、隙を作らず、無用のトラブルを招かないことが重要です。

ガボン、一般的に周辺のアフリカ諸国と比較すれば治安が良いと言われていますが、殺人や強盗などの重大犯罪をはじめ、各種犯罪が日常的に発生しており、当地の在留邦人からも毎年被害報告がされています。

2023年8月の政変後初の大統領選挙が4月12日に実施され、オリギ・ンゲマ大統領が当選を果たしました。2025年10月には国民議会選挙・地方選挙が行われ政治的には安定期に入ったと言えます。一方で、アフリカでは近年政情の不安定さが増しており、ガボンも将来にわたって安定した状態が続くとは言い切ることはできません。現在まで外国人を狙ったテロ等は発生していませんが、日頃から当地新聞・テレビ、インターネット等のニュースに関心を持つとともに、「たびレジ」に登録し、普段から外務省や当館が発信する安全情報を確認するようお願いします。

2 最近の犯罪発生状況

最近の邦人の犯罪被害としては、

- 家人が就寝中の民家に押し入り、凶器を示して金品を強奪する強盗事件
- 乗合タクシーで乗客のカバンから貴重品を盗むスリ事件
- 深夜に無施錠の窓から居宅内へ侵入し、金品を盗む忍び込み事件
- 歩行中の邦人が所持していた手提げカバンを強引に奪取するひったくり事件などが発生しています。

また、ガボン国内では、空き巣や傷害事件のほか、殺人や強盗、性犯罪等が連日報道されており、薬物犯罪も深刻化しています。

【実際にあった犯罪手口】

- エアコン室外機や屋外に置いてあった梯子を利用してアパートの窓から侵入し、金品を盗む。
- 在宅中に呼び鈴が鳴り、確認せずドアを開けたところ二人組の男が押し入り、刃物を突きつけて金品を要求する。
- 乗合タクシーに乗車中、運転手や同乗者が「座席が濡れているから助手席に移動してほしい」、「サイドミラーの角度を調整してほしい」などと求め、対応している

隙にカバンの中から財布を盗む。

○歩行中の被害者に、男二人組が前後から近づいてひったくりを試み、抵抗すると殴る蹴るの暴行を加え、カバンを奪い取る。

○歩行中の被害者の後方から接近し、追い抜きざまにたすき掛けにしていたカバンを引きちぎって奪い取る。

○路上で背後から羽交い締めにして刃物を突きつけ、金品を奪い取る。

3 防犯のための具体的注意事項

(1) 住居対策のチェック項目

○住居周辺は安全な地区か

○集合住宅の場合、住居の階層はできる限り上層階が望ましい

○侵入の足場になるようなブロック塀やゴミ箱等はないか

○住居が1～3階の場合、窓に鉄格子は設置されているか

○敷地を区切る高い塀はあるか、有刺鉄線などの防犯対策がなされているか

○玄関扉の鍵の取り替え、門(かんぬき)の設置が望ましい

○各窓の鍵は確実にかかるか、ガタつき等はないか

○防犯カメラ、警報装置等は設置されているか

○信頼できる警備員が配置されているか

(2) 外出時のチェック項目

○目立つ服装や言動は控える

○単独・徒歩での外出は極力控える

○不必要なもの(高額な現金、高価に見える時計・装飾品等)は持ち歩かない

○外出中はイヤホン及びスマートフォンの使用を控える

○ひったくられやすい手提げカバンやセカンドバッグ、貴重品の存在を思わせるカバン(パソコンバッグ、旅行バッグ等)を持ち歩かない

○現金の所持は必要最小限にし、使用時は周囲に見られないよう努める

○日没後の外出は極力控える

○車両乗降時は狙われやすいため、特に周囲を警戒する

○車両乗車時は極力窓を閉め、必ずドアをロックする

○車両乗車中、荷物は車外から見えない場所(足下等)に置く

○乗合タクシーの利用は極力避け、信頼のおけるタクシーを利用する

○乗合タクシーに乗らざるを得ない場合は、先客がいる際はスリに注意し、運転手や客に不審な言動があった場合は、直ちに降車する

○人込みを避け、不穏な人ばかりを見つけたら速やかにその場から離れる

○薬物中毒等が疑われる挙動不審者や泥酔者等を発見したら、直ちにその場から

離れる

【治安上特に注意を要する地区(リーブルビル市内)】

Akébé Plaine、Atsibi Ntsos、Cocotier、Derrière la Prison、Sorbonr、Carrefour Léon Mba、Petit Paris、Mont Bouët、Peyrie、Venez-voir、Avéa、Kinguélé、La Gare Routiere、STFO、Rio、Nkembo、Le Rond-Point de la Democratie、Charbonnages、PK5～PK12、Carrefour IAI

(3) 生活上のチェック項目

- 近隣住民と良好な人間関係を構築しておく(いざというときの助け)
- 自宅への訪問者はドアスコープで必ず確認し、不用意にドアを開けない
- 使用人や運転手等を雇う際は、身分証や滞在許可証だけではなく、可能な限り借金の有無、犯罪歴の有無等も確認する
- 信用できる使用人や運転手であっても、不用意に自宅内や車内に貴重品を放置しない
- 安易に第三者(使用人、警備員、運転手等)に鍵を預けない
- 安易に第三者に外出(特に長期旅行)の情報を教えない
- 長期不在時は、信頼できる知人等に自宅の管理や見回りを依頼することも検討

【パスポートの取扱い】

パスポートは不用意に他人に渡したり、放置したりしないよう注意してください。盗難被害に遭ったり紛失したりした場合は、直ちに警察に届け出て、盗難又は紛失証明を入手し、大使館でパスポートの再発給等の手続きを行う必要があります。警察及び大使館での手続きの際、パスポートの写しが必要になる可能性がありますので、万一に備え、コピーを手元に用意しておくことをおすすめします。

なお、治安当局による検問等において、一時的にでも治安当局者に旅券を手渡すことのないよう十分注意してください(賄賂の支払いなど相手の要求をのむまで返却されない可能性があります)。

4 犯罪被害に遭ったら

犯人は凶器を所持していることが多く、抵抗すればためらわず暴力的な行為に及びます。また、薬物の影響下、常軌を逸した行動に出ることも考えられます。日本とは異なり、警察による迅速且つ適切な対応は必ずしも期待できません。

犯罪現場に遭遇したら、身の安全を最優先に考え、抵抗しないようにしてください。在宅中に押し入られた場合は、施錠設備のある部屋等に逃げ込み、家具やベッド等でバリケードを作るなどして犯人との接触を防ぎ、周囲に助けを求めてください。

犯罪被害に遭ったり、邦人が犯罪被害に遭ったとの情報を見聞きしたりした場合は、在ガボン日本国大使館へご一報願います。

5 交通事情と事故対策

当地では交通事故が頻発しています。その主な原因として以下が挙げられます。

- 速度超過や飲酒運転等の悪質な交通違反が横行
- 不十分な道路環境(凹凸だらけの車道、ガードレール・信号・街路灯の未設置等)と常態化する整備不良車の存在
- 歩行者の無理な道路横断
- 乗合タクシー等による無理な車線変更、急停・発車

日本とは交通ルールが異なり、運転マナーも劣悪ですので、あらゆる可能性を排除せず、防衛運転を心がけましょう。

交通事故の当事者となった場合は、相手方による不当な過失追及、事故処理中、多人数に囲まれての加害行為、意図的な事故による不当要求(当たり屋)や強盗などに発展することがありますので、不用意に車外に出ず、知人の応援を呼ぶなどして、複数名で対応するよう心がけてください(負傷者がいる場合は救護活動を最優先してください)。

このほか、車両検問時等に治安当局者から公然と金銭(賄賂)を要求されることが多々あります。治安当局者との対応時は不用意に窓を開けず、身分証やパスポートを手渡さないようにし、賄賂要求に対しては毅然とした態度で臨みましょう。

また、交通違反により警察官からその場で罰金の支払を求められた場合、その罰金は正規のものではなく、その警察官が私的に要求した金銭になりますので注意してください(交通違反を正規に処理した場合の罰金は、法律に基づいて後日に支払うこととなります)。

6 テロ・誘拐対策

現在のところ、ガボンにおいて、テロ・誘拐による日本人の被害は確認されていません。

他方、テロによる日本人の被害は、シリアやアフガニスタンといった渡航中止勧告や退避勧告が発出されている国・地域に限りません。テロは、日本人が数多く渡航する欧米やアジアをはじめとする世界中で発生しており、これまでもチュニジア、ベルギー、バングラデシュ、スリランカ等においてテロによる日本人の被害が確認されています。

近年は、世界的傾向として、軍基地や政府関連施設だけでなく、警備や監視が手薄で不特定多数が集まる場所を標的としたテロが頻発しています。特に、観光施設周辺、イベント会場、レストラン、ホテル、ショッピングモール、公共交通機関、宗教関連

施設等は、テロの標的となりやすく、常に注意が必要です。

また、外国人を標的とした誘拐のリスクも排除されず、注意が必要です。

テロ・誘拐はどこでも起こり得ること、日本人も標的となり得ることを十分に認識し、テロ・誘拐に巻き込まれることがないよう、「たびレジ」、海外安全ホームページ、報道等により最新の治安情報の入手に努め、状況に応じて適切かつ十分な安全対策を講じるよう心掛けてください。

【緊急事態対処マニュアル】

1 平素の準備と心構え

(1) 在留届の提出

同一渡航先に3か月以上滞在する予定の方は、旅券法第16条に基づき、滞在先の在外公館に在留届を提出することが義務づけられています。在留届は、皆様が安心して海外生活を送れるよう、大使館からのサポートを受けやすくするためのものです。大使館は、在留届が提出されて初めて管轄国における皆様の所在(住所、電話番号、メールアドレス等)を把握できますので、到着されましたら速やかに届出をお願いします。届出は、外務省ホームページ上の「在留届電子届出システム(ORRnet)」の利用をお願いします(以下、※注)。在留届の届出後、届出内容に変更があった場合には、必ず変更手続きを行ってください。変更届がないと、いざという時の連絡が受けられなくなる可能性があります。また、日本への帰国や他国へ転出される際も忘れずに手続きをお願いします。

※注: 日本からガボンに渡航する場合、「オンライン在留届(ORR ネット)」により、現地到着の90日前から在留届の提出が可能です。

(2) 旅行時の「たびレジ」登録

在留届提出義務のない当地での滞在が3か月未満の方や、在留届を提出された方でも、第三国へ旅行や出張でお出かけになる際は、是非、外務省海外安全情報サービス「たびレジ」へのご登録をお願いします。滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡等の受け取りが可能になります。

(3) 海外旅行傷害保険の加入

当地では、日本等先進諸国と異なり、事件・事故等による大怪我や重病にか

かった場合に受けられる治療に限界があり、万一の場合はヨーロッパ等への緊急移送を考えなければなりません。移送等の費用は極めて高額(数千万円単位)になることが見込まれますので、緊急移送を担保した海外旅行傷害保険に加入しておくことをお勧めします。

(4) 連絡体制の整備

ア 大使館では、皆様から提出していただいた「在留届」に基づき、「緊急連絡網」を作成し、緊急事態の発生に備えています。緊急事態発生の際には、大使館から皆様へ安否確認等の連絡をしますので、電話番号等に変更があった場合は、速やかに大使館領事班まで連絡してください。

イ 緊急事態はいつ起こるか分かりませんので、事態発生時における家族間の連絡方法等について、あらかじめ確認しておいてください。また、外出時は、行先を家人等に明らかにするよう平素から心掛けるとともに、一時帰国や旅行等で長期間不在になる場合には、あらかじめ大使館に連絡をお願いします。

ウ 緊急事態発生の際には、大使館から必要な情報や対策等を連絡いたします。携帯電話やインターネット回線等が使用できない場合は、FM放送やNHK海外放送等を通じて連絡することがありますので、短波・FM受信可能なラジオを準備しておいてください。

○緊急FM放送日本大使館(89.7MHz または 89.3MHz)

※大使館から半径約 10 km圏内で受信可能

○ラジオ日本NHK海外放送(<http://www3.nhk.or.jp/nhkworld>)

(5) 避難場所

外出中に緊急事態に遭遇した場合の一時避難場所を日頃から検討しておくことが重要です。勤務先、通勤途中、買い物等の際に、どのような事態に巻き込まれる可能性があり、どこへ避難するかなど、様々なケースを想定しておいてください。

首都に滞在する邦人の緊急避難先は、原則として当大使館になります。事態の状況によっては、国外退避等へ向けた参集をお願いすることがありますので、当館への複数の避難ルートを検討しておいてください。また、車両を保有していない方は、車両を有する知人と平素から連絡を密にし、必要な場合は同乗させてもらえるように依頼しておいてください。

なお、当国においては、道路事情及び周辺諸国の治安情勢等から陸路での国外脱出は困難な状況ですが、比較的安全な国内他都市への移動を求められる場合も考えられます。日頃から保有車両の整備を心掛け、ガソリンは常時満タンに近い状態にしておきましょう。

(6) 非常用物資の準備等

ア 一旦緊急事態が発生すると、一刻を争う事態となることが懸念されます。立ち上がりが遅れると数少ない脱出の機会を失いかねませんので、社会情勢の悪化を感じた際は、あらかじめ着替えや貴重品(現金・クレジットカード等)、生活必需品などをまとめておき、迅速に行動できるようにしておいてください。

イ パスポートは、外国で皆様の身分を明らかにする唯一の証明書です。最終ページの「緊急連絡先」(旧「所持人記入欄」)を漏れなく記載し、安全な場所に保管しておくとともに、有効期限が6か月以上あることを確認しておいてください。

ウ 当国の滞在許可証を取得している方は、出国査証を取得する必要があり、さらに再入国をするためには再入国査証も必要になります。通常、当該手続に1週間以上の時間を要しますが、緊急事態発生時にはそれ以上の日数を要し、予定の日時に出国できなくなるおそれがありますのでご注意ください。

エ 当国通貨 FCFA は、アフリカ中西部の FCFA 圏以外では他の通貨に換金できませんので、家族全員が10日間程度生活できる外貨及びクレジットカードを準備しておいてください。

オ 緊急事態発生時には、店舗閉鎖や物資の不足、また、外出できない状態になることが想定されます。10日分程度の食料や飲料水、常備薬等の生活必需品を常時自宅に確保しておくことが重要です。

2 緊急時の行動

(1) 基本的心構え

緊急事態発生時には、流言飛語に惑わされ事態が拡大、混乱することがあります。過去の旧ザイール(現コンゴ民主共和国)暴動の際には、早く逃げようとした外国人の多くが犠牲になり、家で経過を見守っていた人が無事救出されたという事例もありますので、事案発生の際は平静を保ち、大使館と連絡を取りながら慎重に行動してください。また、銃声が聞こえるなど不穏な状況にあるときは、不用意に窓の方へ近づかないことはもとより、不要不急の外出を控えるようお願いします。

緊急事態発生時には、邦人同士が助け合って対応することが重要です。可能な限りご協力をお願いします。

(2) 情勢の把握

緊急時には、事案の状況をできる限り正確に把握し、冷静に判断することが大切です。大使館からの情報のほか、テレビ、ラジオ、インターネット等からの積極的な情報収集を心掛けてください。

(3) 大使館への通報等

ア 緊急事態発生時には、当館から皆様の所在・安否確認を行います。旅行中に緊急事態の発生を知った場合には、皆様から当大使館又は外務省領事局海外邦人緊急事態課、海外邦人安全支援室もしくは近隣の日本国大使館に所在の連絡をお願いします(別添「連絡先一覧」参照)。

イ 在留邦人の生命・身体・財産に危害が及ぶおそれのある事象に関する情報は、断片的なものでも構いませんので、大使館へ連絡をお願いします。

(4) 国外への退避

ア 大統領選挙前後など、事前に緊急事態の発生が予測できる場合や事態が悪化して鎮静化に相当期間を要すると見込まれる場合には、定期商用便が運行している間に国外へ退避してください。

また、日本へ帰国、あるいは第三国へ避難する場合は、その旨を大使館へ連絡してください。

イ 事態が極度に悪化し、日本政府が「退避勧告」を発出した場合には、早急に国外へ退避してください。一般商用便の運行が中止された場合や満席で座席が確保できない場合は、臨時便やチャーター便を手配したり、自衛隊機や他国の協力を得て退避したりすることもあり得ますので、その際は大使館の指示に従ってください。

ウ 状況により、大使館への避難・集合を呼び掛ける場合や、周辺の在留外国人の避難場所に集合し、他国の退避オペレーションに合流していただく可能性もあります。その際には、大使館及び当該国の指示に従い、安全な方法で避難してください。

おわりに

当地における防犯対策及び緊急事態対策について、基本的なことを記載しましたが、これが全てではありません。

防犯対策は、生活のあらゆる場面において「自分の安全は自分で守る」という基本原則を忘れないことが重要です。また、平素から緊急事態の発生に備えるとともに、事態が発生した場合には、どの時点で国外脱出をするのか、主要道路が封鎖された場合には、どのような経路・手段で大使館、空港等に向かうのかなど、対処方法について具体的にシミュレーションをしておくことが重要です。そして、緊急時には冷静な判断の下、大使館と連絡を取りながら慎重に行動するよう心掛けてください。

(ご参考)

【緊急事態に備えてのチェックリスト】

- ☐ パスポート
 - ☐ 6か月以上残存有効期間があるか
 - ☐ 最終ページの「緊急連絡先」(旧「所持人記入欄」)を記載しているか
- ☐ 出入国査証、滞在許可証等
- ☐ 現金(ユーロ等外貨を含む)、クレジットカード
- ☐ 自動車等の整備
 - ☐ 日常点検(バッテリー、ライト、タイヤ、ブレーキ、オイルなど)
 - ☐ 燃料(ガソリン、軽油)の補給
 - ☐ 車内常備品(懐中電灯、地図、簡易トイレ、ティッシュなど)
- ☐ 携行品(リュック1個程度)
 - ☐ 衣類・着替え(長袖・長ズボン、綿等素材)
 - ☐ 履き物(歩きやすく頑丈なもの)
 - ☐ 洗面用具(タオル、歯磨きセット、石けん等)
- ☐ 備蓄食料(概ね10日分)
 - ☐ 水
 - ☐ 缶詰、インスタント食品等
- ☐ 医薬品、衛生用品
 - ☐ 常備薬
 - ☐ 救急キット(外傷薬、消毒薬、衛生綿、包帯、絆創膏など)
 - ☐ 生理用品
 - ☐ おむつ
- ☐ その他
 - ☐ ラジオ(予備電池を含む)
 - ☐ 懐中電灯
 - ☐ ライター、ろうそく、マッチ
 - ☐ 缶切り、栓抜き
 - ☐ 紙製の食器、割り箸
 - ☐ 簡単な炊事用具
 - ☐ 防災頭巾(クッション等でも可)

【連絡先一覧】

1. 日本政府関係機関

外務省 海外邦人緊急事態課	+81 3 3580 3311(代表)
外務省 海外邦人安全支援室	+81 3 3580 3311(代表)
在ガボン日本国大使館	011 73 22 97 / 011 73 02 35
夜間・休日の緊急連絡先	077 38 73 38
在フランス日本国大使館	+33 1 4888 6200
在カメルーン日本国大使館	+237 2 22 20 62 02

2. 治安機関等

リーブルビル市警	074 18 12 12 / 065 95 06 67(WhatsApp)
犯罪緊急部隊	1720
司法警察	011 72 09 51 / 1722
交通事故警察	074 18 12 12
消防	
Bessieux	011 76 15 20
Owendo	011 70 27 61

3. 病院, 救急車

Polyclinique Marthenica	077 11 12 22
Polyclinique EL-RAPHA	077 98 66 60
Polyclinique Chambrier	011 76 14 68 / 011 72 93 02
リーブルビル大学医療センター	011 48 48 01
オーウエンド大学医療センター	062 52 03 82
オマール・ボンゴ軍病院	011 79 37 00
アカンダ軍病院	011 45 90 00
SMUR(有料)	1300
SAMU(有料)	1333
TRANSMED(民間救急)	011 73 40 60 / 077 70 12 72

4. ホテル

Park Inn by Radisson Libreville	011 44 80 80
Radisson Blu Okoumé Palace Hotel	011 44 80 00

Le Méridien Re-Ndama	011 79 32 00
Hôtel Akewa	011 44 68 28 / 066 11 08 08
Hotel Hibiscus	
Blvd Triomphal	077 87 10 70
Louis	074 62 14 74
Hôtel Le Cristal	011 72 27 78
ONOMO HOTEL	011 45 91 00 / 066 98 15 15
L'étoile d'or	011 44 69 80 / 065 40 68 80
NOMAD	011 45 45 45 / 065 40 77 29

5. 国際線航空会社

AIR FRANCE	011 79 64 64 / 077 11 11 71
ETHIOPIAN AIRLINES	065 93 16 60 / 011 75 13 15 / 065 31 66 66
RWANDAIR	065 99 13 99 / 065 99 13 98 / 011 73 30 06
AIR COTE D'IVOIRE	011 77 05 60 / 065 27 02 02
CEIBA INTERCONTINENTAL	011 74 05 11 / 011 74 05 12
CAMER – CO	011 76 17 22 / 077 97 80 88
ROYAL AIR MAROC	011 74 36 36 / 062 51 16 51
SENEGAL AIRLINES	011 72 14 45 / 066 48 96 98
SOUTH AFRICAN AIRWAYS	011 72 41 91 / 011 72 60 81
TURKISH AIRLINES	011 44 28 28 / 011 76 35 35 / 062 25 55 55

【緊急時のフランス語表現】

助けて！	Au secours! (オスクール)
泥棒！	Au voleur! (オヴォラー)
警察を呼んで！	Appelez la police! (アフ・レ・ラ・ポリス)
火事だ！	Au feu! (オ・フ)
消防車を呼んで！	Appelez les pompiers! (アフ・レ・レ・ポ・ンピエ)
救急車を呼んで！	Appelez une ambulance! (アフ・レ・ユナンビュランス)
逃げて！	Sauvez-vous! (ソヴエ・ウ)
日本国大使館	L'Ambassade du Japon (ランバサット・デュ・ジャポン)
警察署	Le commissariat de police (ル・コミサリア・トゥ・ポリス)
怪我しました。	Je me suis blessé(e). (ジ ュムスイ・ブレッセ)
動けません。	Je ne peux pas bouger. (ジ ュヌフ・ハ・フジエ)
吐きそうです。	Je vais vomir. (ジ ュヴァ・ヴァ・オミール)
足を骨折しました。	Je me suis cassé la jambe. (ジ ュムスイ・カッセ・ラ・ジヤンブ)
高熱があります。	J'ai une forte fièvre. (ジ エ・ユヌ・フォル・フィエール)
胃が痛い。	J'ai mal à l'estomac. (ジ エ・マラ・レストマ)
息が苦しい。	Je respire mal. (ジ ュ・レスピール・マル)
内科	Généraliste (ジ エネラリスト)
外科	Chirurgie (シリュルジ)
小児科	Pédiatrie (ペディアトリ)

